

前橋城跡(前橋市)

築城年代:延徳年間(1489~92年)、築城者:長野賢忠

正面は群馬県庁で本丸のエリア/東側か西方向に見たところ



「再築前橋城」復元図





前方にマウンドが見える/これは本丸東側の土塁



横断歩道を渡ると馬の埴輪がお出迎え



こんな塩梅



左手を見るとこのエリアが本丸



右手の土塁の手前に説明板が立っている



それでは本丸の土塁を見てみよう/左手に看板がある



「三の丸緑地」と記されている/これは幕末に前橋城を再建した際、旧前橋城の三の丸を本丸として再建したため/三の丸の西側にあった旧前橋城の本丸は利根川の激流に流されて消失してしまったのだと云う



右手を見たところ



その土塁の後側を見たところ



土塁は前方で左手(西方向)に折れている



これはその土塁が折れているコーナーを外側から見たところ/「前橋城跡の碑 入口」と記された標柱が立っている



左手を見たところ



「前橋城跡の碑 入口」から土塁上に登るとその石碑と説明板が立っていた



前橋城址之碑

この石碑は旧前橋藩にゆかりのある人々などにより、明治四一（一九〇八）年三月に建てられました。碑文には前橋城の由来と、碑の建設経過が記されています。碑の標題は城主の子孫である松平直之氏が筆をとり、本文は東京帝国大学の国史学の教授である重野安繹氏が執筆して、書家の日下部東作氏が書きました。かたわらの副碑によれば、石碑建立には五名の建設委員があたり、県内外の八百名を越える人々の寄付があったことが知られます。

碑の建つこの地は、江戸時代末期の慶応三（一八六七）年に整備された「再築前橋城」の、本丸を囲む土塁の北東部にあたります。

碑文は次のとおりであり、その大意は北側のパネルを参考にしてください。
なお、碑文の文字には異体字が多いため、適宜現行の字に改めています。

前橋城址碑

勅選議員正四位勲三等文學博士重野安繹撰

前橋城未詳創置舊作廐橋後更今字蓋長野氏之族廐橋氏世守之云其地在上野國中央利根川流西妙義榛名赤城諸山遙峙西北稱為形勝永祿初上杉景虎來據此城蹂躪八州前橋之名著於世後屬武田氏繼田右府滅武田氏使其將瀧川一益為關東管領以鎮於此及右府遭害一益西奔遂歸北條氏北條氏亡德川氏從關東平岩親吉居之尋封酒井侯重忠至八世孫忠恭寬延二年轉封姫路而松平侯朝矩來代以利根川每歲漲溢城壁漸壞圯明和四年請幕府移治川越城遂廢矣百年重鎮一旦丘墟士民之住此者不能無遺憾焉後數十年築堤疏渠治水有法河身亦漸遷從於是始有再築之議時朝矩君之裔直侯君當國銳志以圖改修迨直克君襲封遂復請幕府而創役士民間之舞踏驪欣富者輸財壯者獻力經始於文久三年至慶應三年工竣規模比前頗廓至是凡九十六年而得復舊觀是歲遷自川越藩士從者數千戶口日殖此地素富物產絹絲之利尤饒藩吏亦憇慇勸獎輸出洋外者極多既而王政革新廢藩置縣復毀城郭方是時人心皇皇懼或衰替幸父老營畫百計朝廷亦以其地因為都會置群馬縣廳於牙城以治一國有衙署學校之設有公司館廠之學街衢日趨殷富人口今贏四萬見施市制然嚮者撤城遷治井邑蕭條儻非有直侯直克兩君再築之功安得觀今日之隆興乎哉於是舊封士民追念其遺德謀所以諗來者乃卜城址一隅以建碑使委員某來謁予文因叙古今興廢盛衰之概系以銘曰

上毛之野	古稱豐殖	及彼亂離	弱肉強食	地居必爭	民莫得息	幕府置鎮	勲舊親藩
懷柔撫綏	照濡有恩	無奈河患	壞此城垣	誰再營築	維松平氏	崇墉有屹	河水清駛
產業勃興	繭絲麻象	維茲都會	爵為名區	樹碑紀德	永懷勿渝	喬松數蔭	古城之隅
明治四十一年三月		從五位伯爵松平直之題額	正五位日下部東作書				

田中禾年刻

石碑の右手にはその解説もあった



前橋城址碑の解説

前橋は古くは厩橋と称し、東山道の群馬の駅が近く、それが地名の起こりであるという。

厩橋城が築かれたのは、十五世紀のこと、初代城主は箕輪城主長野氏の一族前橋長野左衛門尉方業

(法号固山宗賢)とされている。以後長野氏らの厩橋衆が拠っていたが、天文二十一年(一五五二)

小田原北条氏の勢力が上州に及び、永禄三年(一五六〇)には、長尾景虎(上杉謙信)が厩橋城に進出して翌年小田原を攻撃し、関東奪回をはかった。

このあと上杉氏の家臣北条高広が厩橋城を守っていたが、その戦略的な要害が群雄争覇の理由とされ、上杉、北条、武田氏の間で攻防がくりかえされた。

天正十年(一五八二)武田勝頼が敗死すると、織田信長の部将滝川一益が厩橋城に入り、関東管領を称した。しかし信長の急死によって、一益は本国に帰り、城は北条氏の手中に帰した。ついには、天正十八年(一五九〇)四月、小田原討伐軍の浅野長政に攻められて落城した。

同八月関東に入国した徳川家康は、重臣平石親吉を厩橋城三万三千石に封じた。親吉は慶長六年(一六〇二)甲府に移り、代わって川越から酒井重忠が入封、以後九代の間、酒井氏の藩政が続いた。

四代忠清は大老となり、下馬將軍の名で知られる。

酒井氏治世時代の前橋城は城域十五万坪に及び、西に利根川の断崖を背とし、南東に延びる土塁と壕をめぐらしていた。木丸は西端にあつて、ここに三層の天守閣があつた。慶安二年(一六四九)五代忠孚の時、城下町は最も栄え公称を前橋と改めたが、その晩年は財政に苦しみ、寛延二年(一七四九)忠恭の時、姫路に転封となつた。代わつて姫路から松平朝矩が入封したが、酒井氏時代以降難題であつた利根川の激流による城郭の破壊が進み、その修復に苦しんだ松平氏は、幕府に願つて明和四年(一七六七)川越に移城した。

以後、前橋城は廃され、領地は約百年の間、川越藩の分領として陣屋支配を受けることとなつた。

城主を失つた城下町は衰え、領民は再三にわたつて帰城を請願したが、幕末の城主直侯ならびに直克の決断により、文久三年(一八六三)十二月、幕府から再築の許可を得、慶応三年(一八六七)帰城が実現した。

この背景には、前橋領の特産生糸貿易の活況に寄せる藩政再建の願いと、生糸商人ら領民の莫大な献金、努力奉仕があつた。しかしわずか半年で大政奉還となつた。廃藩置県後、城郭は廃されたが御殿は残されて県庁舎となり、前橋の現在の繁栄をみている。碑文は、藩主松平直侯ならびに直克の再築の功を偲んでこの碑を建てるとある。

前橋城址碑の位置は、田城三の丸東南隅の土居上に当たる。

碑の題額は、直克の長子松平直之氏、文は、修史局編修官のちの東京大学教授、貴族院議員になつた重忠の次子松平直之氏である。直之の目下部東作氏は鳴鶴と号し、明治書道界の重鎮であつた。

こんなものもあった



これはそこから南方向に土塁を見たところ



その左手を見たところ



これは左手(西方向)に折れた土塁を見たところ



土塁が折れているコーナーを少し退いて見たところ/この道路は当時の内堀跡と云うことになる



歩道橋の上で南方向を見たところ



同じく西方向を見たところ/この前方に高浜門が見える



ここが高浜門/両サイドは土塁



左手を見たところ



右手を見たところ



高浜門を入り、右手の土塁の先を見たところ



そこから高浜門を見たところ



その右手を見たところ



右手の土塁の先は更に前方に折れながら延びている



少し進んで振り返って高浜門方向を見たところ



さて、右手の土塁の先は西側のここで止まっており、この左手(南方向)は消滅している



そこで右手を見たところ



これが本丸西側の土塁/北方向に見たところ



その土塁を西側から見たところ



その左手はこのように先に延びている



更にその先は本丸の北側の土塁に続いており、この先が高浜門



これは本丸の西側に流れる利根川/天然の要害となっている



その左手を見ると虎姫観音堂が見える



正面が虎姫観音堂/左右に説明坂が立っている





江戸時代初期の前橋城は、この辺りに天守が建っていたらしい

前橋城天守閣推定復原図



江戸時代初期徳川家康の重臣酒井氏は、9代150年間にわたり北関東の要であった前橋城を支配した。この絵は、その当時の城の天守閣を復原したもの。天守閣の建てられた位置はこのあたりと推定されている。

前橋市教育委員会

平成3年10月設置

「当時の本丸は現在の河心に当り県庁のあたりは三の丸であったといわれます」と記されている

虎姫観音堂

虎姫観音

弁財天 五まつる 縁日 毎月七日

既橋城(前橋の旧名)はかつて徳川家康によって関東の華とまでいわれた名城ですが、たび重なる利根川の洪水のため城域は次第に流失し、遂に酒井氏に代る松平氏に至りて別越に移りました。

(当時の本丸は現在の河心に当り、県庁のあたりは三の丸であったといわれます)

このため前橋はこびれ果てたので、町民はお城の再建を願って五年がかりで護岸築城を終え、慶応三年(1867)百年ぶりに城主を迎えました。

利根川洪水の災禍はそのまま本県災害の歴史として、前橋もそのほかではありません。

ここに有志相い図り、遠い昔既橋城主にまつわるお虎の怨霊にまつて次々に水災を招いたと伝えられる虎姫と観世音にまつり、音楽、弁財、福智、延寿、防災、得勝の功德すむれた河川の神、弁財天とともにゆかりのお虎が淵のほとりに堂をたて、永くその加護を祈念するものです。

前橋市観光協会

「虎姫伝説」にまつわるお堂



さて、ここは県庁の北側にある前橋公園/前方に見えるマウンドは土塁



さまざまな記念碑が立っていた



それでは土塁を見てみよう



土塁を北方向に見たところ



土塁の反対側に行って同じく北方向を見たところ/こちらからはかなりの高低差がある



土塁上を北方向に進んでみる



左手を見たところ/「さちの池」が見える



更に進むと少し「折れ」が見られる/右手前方に石碑が見える



これがその石碑



振り返って南方向を見たところ



これは前橋公園で東側から西方向を見たところ/今進んで来た土塁が見える



そこから左手を見ると本丸エリアに建つ県庁が見える



さて、ここは県庁の東側にある前橋城車橋門跡



建物の囲まれてしまった一角にある/左手に説明坂が立っている



車橋門の石垣について

この建物の下には、前橋城車橋門の石垣が保存されています。

前橋城は関東四大名城の一つですが幾多の変遷を経て、この石垣のほか、県庁周辺の土塁と大手町三丁目の空堀とが今に残っています。

前橋市教育委員会の調査によると、堀は関東ローム層まで掘りこまれ、その面に基礎として四寸角の松材を組み杭で固定した上に石を積み上げる、筏工法いかりと呼ばれる方法がとられています。

石垣の高さは、一メートル四〇センチで、四角錐すいに切られた間知石けんちいしが二段に積み重ねられています。石垣の裏側には、玉石うしつが裏込めしてあるなど、細かい点まで配慮されて作られています。

絵図などによると、張り出し部分に橋がかかり、史跡に指定されている石組に櫓うらを渡す構造であったと推定されます。



平成元年 月 日

日本経済新聞社

前に進むと石積みと標柱・説明坂が立っている



まえ ばし じょうくるま ばし もん あと
前橋城車橋門跡

前橋市指定史跡
昭和39年12月22日指定
所在地 前橋市大手町二丁目5-3

関東の4名城にも数えられていた前橋城の遺構は大変少なく、現在では、県庁周辺の本丸土塁とこの門跡位しかありません。

この門は、城の外曲輪そとくるわから城内に至る重要な門で、対の石積みの台石は1辺7.7m×4.25m、高さ1.4mあります。

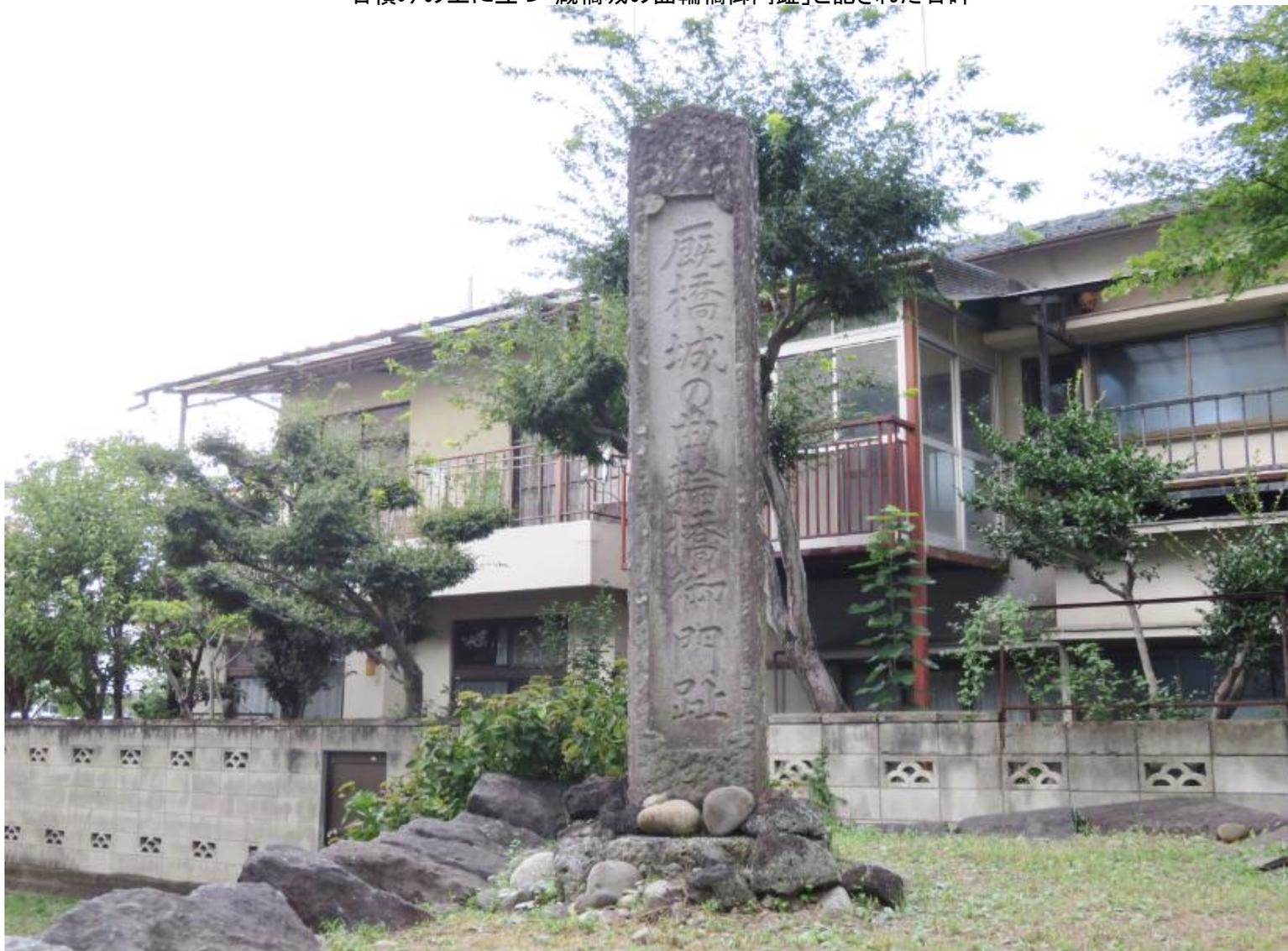
前橋藩4代藩主酒井忠清(後に大老)の代(1637~1681)に、2本の柱の上に横木を1本置いた冠木かぶき門もんから、櫓やぐらの2階を通って門の左右に渡れる渡櫓わたりやぐら門もんに改築され、その後、酒井氏の後を継いだ藩主松平氏が川越へ移城した後もこの門は存続していました。

現在の門は、昭和39年区画整理事業により、間隔がせばめられ西側の台石が東へ8m移動されました。





石積みの上に立つ「厩橋城の曲輪橋御門趾」と記された石碑



その脇はこんな塩梅



隣の石積みの上にも石碑があった



振り返って見たところ/正面に説明坂が見える



この石柱は、かつてここから西へ約200mの
県庁前通りを横切る風呂川に架けられていた
「曲輪橋」南に建てられた記念碑を移築した
ものです。ここは、「車橋門跡」です。

2016年(平成28年)8月

大手町二丁目自治会

昭和の時代まで、風呂川は現在の国の合同庁舎の西側を北から南に流れ、県庁前通り
にあった曲輪橋の下から、群馬県銀行協会の東を南流し、市役所の西に向かって流れ
ていました。(現在は、曲輪橋はなくなり、この付近は暗渠になっている部分が多い)

石碑に書いてある「曲輪橋御門」が存在したかどうかは、不明。
また、「曲輪橋」という橋は、かつて県庁のすぐ南の道路を西に進み、
利根川の岸辺から石倉へ通ずる船橋(小船を並べ、上に板などを敷き
人を通す)が「曲輪橋」と呼ばれていた時代があります。

少し退いて見たところ



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/003gunma/014maebashi/maebashi.html>

<http://www65.tok2.com/home2/yogokun/maebasi.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Maebashi/index.htm>

<http://www.geocities.jp/qbpb900/maebasicastle.html>

http://www.maebashi-cvb.com/history/building/maebashi_jo/index.htm

<https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-12156591705.html>

